

酒造好適米新品種「夢吟香」の育成

加藤 満*・杉浦直樹**・辻 孝子***・中村 充****・城田雅毅*****・加藤恭宏**・
船生岳人*・工藤 悟*****・加藤博美*****・澤田恭彦*****・鈴木敏夫*****・
釋 一郎*****・井上正勝*****・山本晃司*****・伊藤彰敏*****

摘要：「夢吟香」は2010年に愛知県農業総合試験場において育成した酒造好適米水稲うるち品種である。その来歴、特性は次のとおりである。

- 1 本種は、2001年に、「山田錦」を母本とし、「育酒1764」を父本として交配した後代から育成した品種である。
- 2 2002年、F₃集団で個体選抜を実施し、その後、系統育種法に従って選抜固定を進めた。
- 3 本種は、「山田錦」と同熟期の晩生のうるち種で、草型は穂重型に属する。
- 4 「若水」より心白が小さく、外観品質は良い。醸造適性は「山田錦」と同様に優れる。
- 5 病害では、縞葉枯病に抵抗性を有する。
- 6 本種は、温暖地平たん部の早植から普通期栽培地帯に適する。

キーワード：夢吟香、酒造好適米、縞葉枯病

‘Yumeginga’: A New Rice Cultivar for Sake Brewing

KATO Mitsuru, SUGIURA Naoki, TSUJI Takako, NAKAMURA Mitsuru,
SHIROTA Masaki, KATO Takahiro, FUNAO Taketo, KUDO Satoru,
KATO Hiromi, SAWADA Yasuhiko, SUZUKI Toshio, SHAKU Ichiro,
INOUE Masakatsu, YAMAMOTO Koji and ITO Akitoshi

Abstract: A new nonglutinous cultivar for sake brewing ‘Yumeginga’ was developed in 2010. The pedigree and characteristics of this cultivar are summarized as follows.

1. The breeding of ‘Yumeginga’ was started in 2001 by crossing ‘Yamadanishiki’ and ‘Ikusake 1764’.
2. The individual selection was performed on the F₃ population planted in a paddy field in 2002. Since then, the pedigree method has been applied for breeding work.
3. ‘Yumeginga’ belongs to the late maturing group as same as ‘Yamadanishiki’. This variety is panicle weight type and resistant to lodging.
4. The white cores size in the kernel of this variety are smaller than those of ‘Wakamizu’. Furthermore, it has an excellent apparent grain quality. Sake produced using the cultivar tastes as good as that brewed from ‘Yamadanishiki’.
5. This variety has remarkably high resistance to rice stripe disease.
6. This variety is well adapted to cultivation in fertile or semi-fertile paddy field in the plain regions of Central Japan.

Key Words: Yumeginga, Sake brewing, Rice stripe disease

*作物研究部 **作物研究部（現農業大学校） ***作物研究部（現環境基盤研究部）
****作物研究部（現山間農業研究所） *****作物研究部（現園芸農産課） *****作物研究部（退職）
*****作物研究部（現愛知経済連） *****作物研究部（現愛知県農業機械商業協同組合）
*****作物研究部（現JAあいち豊田） *****作物研究部（現愛知県米麦振興協会）
*****愛知県食品工業技術センター (2011. 10. 7 受理)

緒言

愛知県内の酒造好適米品種は、1983年に奨励品種に採用された「若水」¹⁾が1995年には289haまで作付を伸ばした。その後、日本酒需要の低迷もあり、作付面積は減少を続け、現在は42ha（推定値）程度となっている。

近年、県内の酒造業界においては、消費者ニーズである食の安全・安心及び地産地消の気運の高まりをとらえ、生産者と酒造メーカーが契約栽培等で連携し、酒造好適米を地元で生産・利用した清酒製造が行われてきている。現在、県内平たん地域で作付されている「若水」は高度精白が困難なため、主に、本醸造酒用（70%精白）として利用されており、精白歩合の高い吟醸酒（精白歩合60%以下）、大吟醸酒（精白歩合50%以下）用としては不適である。そのため、付加価値の高い吟醸酒、大吟醸酒の地域ブランド酒製造に対し、「山田錦」に近い高度精白適性を持ち、栽培安定性の高い品種が切望されている。

「夢吟香」は、愛知県農業総合試験場作物研究部（愛知郡長久手町）と愛知県食品工業技術センター（名古屋市）が共同で開発した晩生の酒造好適米品種である。

「若水」と比較して、粒大は同等であるが心白が小さく、高度精白が可能である。また、「若水」と同様に耐倒伏性が優れ、更に、縞葉枯病抵抗性を有しているため栽培安定性が高い。

「夢吟香」を導入することにより、本醸造酒から吟醸、大吟醸酒まで県産酒米の利用拡大が可能となり、本品種を利用した新酒の開発等による産地活性化が期待される。

本報では、その育成経過と品種特性を報告する。

材料及び方法

1 育種目標

「若水」が持つ強稈で耐倒伏性に優れた性質と縞葉枯病抵抗性の付与による高い栽培安定性、更に、「山田錦」が持つ優れた醸造特性を併せ持つ酒造好適米品種の育成を目標とした。

2 試験方法

生産力検定は稚苗機械植えで実施した。また、生産力検定、特性検定ともに、現行の本県平たん地向き奨励品種の「若水」を対照品種とし、醸造特性が優れる「山田錦」を比較品種として試験を実施した。なお、いもち病検定及び現地試験以外は、農業総合試験場作物研究部において試験を実施した。

また、醸造適性に関する試験は、食品工業技術センターにおいて実施した。

3 育成経過

本種の育成は、2001年、醸造適性が優れる酒造好適米品種「山田錦」を母本にし、栽培安定性の高い「若水」に縞葉枯病抵抗性を付与した本県育成系統「育酒1764」を父本として、人工交配から始めた（図3）。

F₁～F₂世代：世代促進温室において、2001年の秋冬作でF₁を栽培し、翌年に、春作でF₂雑種集団を養成した。

F₃世代：2002年、F₃世代をほ場で栽培し、草型、穂相等で29個体、その後、玄米品質により10個体を選抜した。

F₄世代：10個別系統を展開し、縞葉枯病、穂いもちDNAマーカー検定及び草型、玄米品質により3系統を選抜した。

F₅～F₆世代：縞葉枯病、穂いもちDNAマーカー検定を継続し、草型が優れ、玄米品質及び心白発現が良好な系統の選抜固定を進めた。

F₇世代：3系統群12系統を展開し、穂いもちDNAマーカー検定結果、縞葉枯病生物検定結果、草型、玄米品質及び醸造適性で1系統群に絞った。同世代に「育酒1959」の系統名を付した。

F₈世代：2系統群7系統を展開し、縞葉枯病生物検定結果、草型、玄米品質及び醸造適性で1系統群に絞った。同世代に「あ系酒854」の系統名を付した。

F₉世代：「愛知酒117号」の系統名を付し、奨励品種決定調査に供試した。

本県平たん地域での適応性、醸造適性等の検討を重ねた結果、有望と判断し、2010年3月をもって育成を完了した。

「愛知酒117号」は、2010年11月に愛知県職務育成品種認定会議において育成品種として認められ、同年12月に品種名「夢吟香」（読み方：ゆめぎんが）で種苗登録申請を行い、2011年3月に出願公表された。

結果及び考察

「夢吟香」は、耐倒伏性が優れ、縞葉枯病抵抗性を有するため、栽培安定性に優れる。また、「若水」に比べて心白が小さく、高度精白適性が高い。本品種で醸した吟醸酒は官能評価が優れ、「山田錦」に近い優れた醸造特性を持つ。

以上から、育成開始時に設定した育種目標を達成した。

本種の主要形質別の特性は以下のとおりである。

1 早晩性（出穂・成熟期）

愛知県平たん部における早植栽培では、「若水」より出穂期で9日、成熟期で10日遅い。普通期栽培では、「若水」より出穂期で14日、成熟期で15日遅い。「山田錦」とほぼ同熟期で、愛知県の熟期区分では「晩生種」に属する（表1、2）。

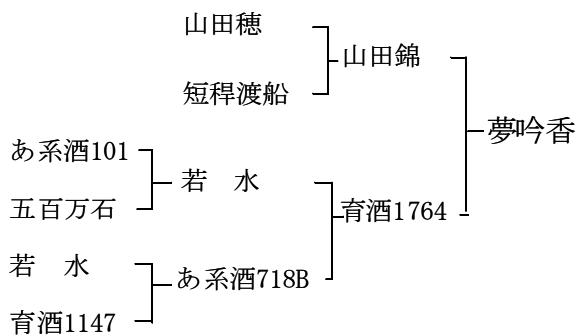


図1 「夢吟香」の系譜



図2 「夢吟香」成熟期の草姿

年次	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	
世代	交配 F ₁	F ₂	F ₃	F ₄	F ₅	F ₆	F ₇	F ₈	F ₉	F ₁₀
系統群数					3	7	3	2	1	1
系統数			10	9	20	12	7	4	7	
個体数	78	30g	2000	300	270	600	360	210	120	270
備考		個体選抜		系統選抜		育酒1959	あ系854	愛知酒117号		

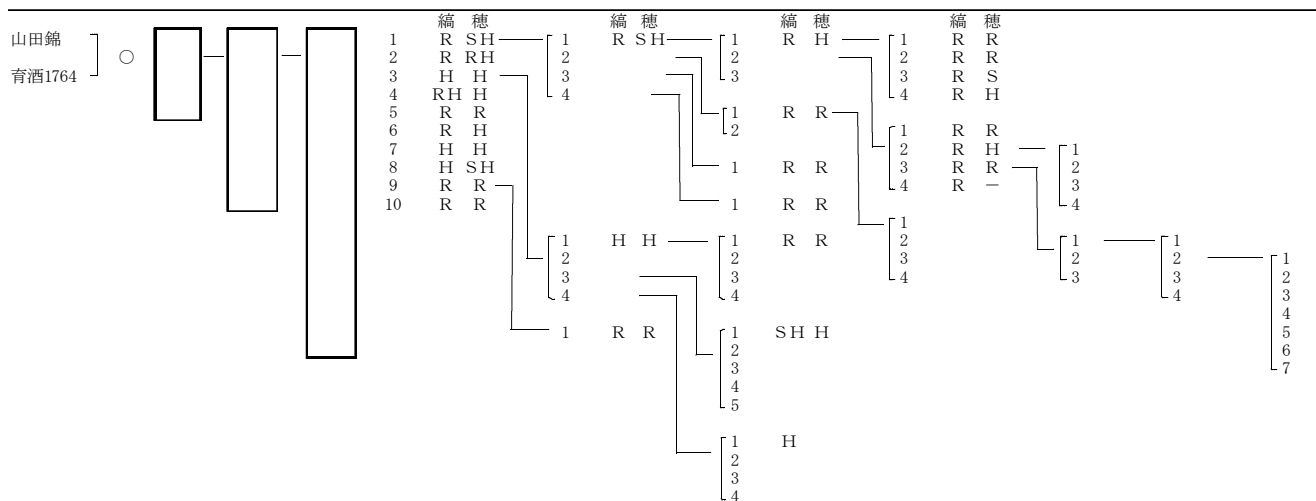


図3 「夢吟香 (愛知酒117号)」の育成経過

注、図中の縞 (縞葉枯病)、穂 (穂いもち) のR、RH、SH、H、SはDNAマーカー検定結果
縞葉枯病生物検定はF₄~F₆に実施 (図中省略)

2 草型

稈長は「若水」より約10cm長い。穂長は、「若水」より1~2cm長く、穂数は少ない。草型は「穂重型」に属する (表1、2)。

N₀ 節間長は「若水」よりやや短く、N₁~N₅は長い (表4)。

1 穂もみ数は、「若水」より多い。2次枝梗数がやや多く、2次枝梗着粒歩合が高い (表5)。ふ先色は黄白で、芒は無い。脱粒性は「難」である (表1)。

3 耐倒伏性及び穂発芽性

強稈で耐倒伏性は強い。穂発芽性は、「若水」の「難」に対して、「中」であり、「山田錦」の「やや易~易」より優れる (表2、10)。

4 耐病虫性

いもち病真性抵抗性遺伝子型は *Pii*と推定される (表

11)。葉いもちほ場抵抗性は「弱」である (表12)。穂いもちほ場抵抗性は、生物検定が未実施であるために不明であるが、DNAマーカー検定では、インド型稲「Modan」由来の穂いもちほ場抵抗性遺伝子 *Pb1*を持つと推定される。縞葉枯病に対しては、「Modan」由来の抵抗性遺伝子 *Stvb-i*を持ち「抵抗性」である (表13)。白葉枯病抵抗性は、「若水」の「弱」に対し、「中」で優れる (表14)。

近年、縞葉枯病については、全国的に多発傾向にある。東海地域においても、静岡県、岐阜県で同病の多発生による減収事例が多数報告されており、両県とも、抵抗性品種への切り替えにより、被害が大きく低減している。本県では、現時点では縞葉枯病の顕著な被害の報告はみられない。これは、本県の主要な主食用うるち種である「あいちのかおりSBL」、「あさひの夢」、「ゆめまつり」等の奨励品種が縞葉枯病抵抗性を保有しているためであると考えられる。しかし、酒造好適米及

び糯種の現奨励品種はいずれも縞葉枯病抵抗性を持っておらず、被害の発生が危惧される。本品種の導入により、酒米生産地での被害を未然に回避できると考えられる。

5 収量性、玄米形質及び外観品質

収量は、早植栽培では、「若水」と同等、普通期栽培では多収である（表2）。

玄米千粒重は、早植栽培では、「若水」と同等、普通期栽培ではやや重い。玄米の形は「半円」に属し、長さは「若水」より普通期栽培でわずかに長い。玄米の粒厚分布は、「若水」と比べ、早植栽培では同等であるが、普通期栽培で粒厚の厚い粒割合が増加する傾向にある。玄米の外観品質は「若水」より普通期栽培でやや優れ、「山田錦」を約1ポイント上回る（表2、6、7）。

6 心白発現率、心白率及び心白型歩合

心白発現率は「若水」よりやや低く、心白率は低い（表8）。また、高度精白に適するとされる線状心白、点状心白の割合が「若水」に比べて高い（表9）。

7 醸造適性

県食品工業技術センターの原料米分析結果では、千粒重は年次変動はみられるものの「若水」と同等である。65%又は70%精米時における砕米率は「若水」に比べて低い。粗タンパク含有率は年次変動はみられる

が、「若水」と同等である（表15）。

吟醸酒の官能評価は、新酒、熟成酒ともに「若水」より香りが良好で、総合評価が高い（表16）。

以上の結果から、本品種は「若水」より高度精白が可能で、吟醸酒、大吟醸酒用途としての適性が高い。また、酒の評価も優れており、「山田錦」由来の醸造適性を引き継ぎ、酒造好適米としての優れた特性を有していると考えられる。

8 現地適応性

2008年から2010年にわたり、県内延べ9か所のほ場で現地適応性について検討した結果、「夢吟香」は収量では「若水」並からやや多収を示す地域が多くみられた。外観品質でも「若水」同等からやや優れた。これらのことから、多数の地域で、「有望～やや有望」の評価が得られた（表17）。

9 栽培上の注意点

適応地帯は、温暖地平たん部で、縞葉枯病抵抗性を有するので同病害発生地域にも適している。また、作型は、早植栽培（5月下旬）～普通期栽培（6月上中旬）であるが、粒大、品質等の面から、普通期栽培が望ましい。

耐倒伏性はやや強であるが、タンパク質含量を高められないために、適正な肥培管理と適期収穫に努める必要がある。

表1 一般特性

品種系統名	早晩性	草型	稈		芒		ふ先色	粒着密度	穂首抽出	脱粒性
			剛柔	細太	長短	多少				
夢吟香	晩生	穂重型	剛	やや太	—	無	黄白	中	中	難
(対) 若水	早生	偏穂重型	やや剛	やや太	中	やや少	黄白	やや密	やや長	難
(比) 山田錦	晩生	中間型	やや柔	中	—	無	黄白	中	中	中

表2 生育収量

作期	品種系統名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏の多少	精玄米重	同左対照比率
早植	夢吟香	8.20	9.27	87	21.4	272	0.5	42.1	99
	(対) 若水	8.11	9.17	78	20.3	304	0.2	42.9	100
	(比) 山田錦	8.20	9.28	101	20.3	372	1.7	42.1	99
普通期	夢吟香	9.01	10.15	83	21.2	284	0.1	42.1	119
	(対) 若水	8.18	9.30	71	19.4	296	0.0	35.5	100
	(比) 山田錦	8.31	10.14	102	20.5	379	2.7	42.1	119

注、2007～2009年の平均値

早植：5月下旬移植、普通期：6月中旬移植

倒伏の多少：0（無）～5（甚）の6段階評価

表3 玄米調査

作期	品種系統名	玄米 ^{100g} 重	玄米 千粒重	品質	米粒の多少									
					腹白	乳白	背白	基白	青未熟	死米	茶米	胴割れ米	穂発芽米	
早 植	夢吟香	803	26.3	5.4	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.1	0.0
	(対) 若水	803	26.4	5.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.2	0.1	0.2
	(比) 山田錦	811	25.6	6.5	0.5	0.2	0.0	0.0	0.1	0.3	0.6	0.1	0.7	
普 通 期	夢吟香	794	27.5	4.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.1	0.0
	(対) 若水	791	26.9	4.7	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.2	0.3	0.0	
	(比) 山田錦	801	27.1	5.5	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.4	0.3	0.2	0.3	

注、品質：1（上の上）～9（下の下）の9段階評価
5が1等、6が2等、7が3等相当（検査等級）

表4 節間長（2008年）

品種系統名	穂長 (cm)	節間長 (cm)					
		N ₀	N ₁	N ₂	N ₃	N ₄	N ₅
夢吟香	19.54	32.78	17.48	15.75	10.64	6.96	2.34
(対) 若水	19.18	34.82	14.44	9.65	6.39	2.25	0.22
(比) 山田錦	18.66	38.03	22.74	17.24	9.90	5.79	1.52

注、普通期栽培のサンプルで調査

表5 穂相（2008年）

品種系統名	穂長 cm	1穂着粒数 粒	粒着密度 粒/cm	枝梗数		枝梗別着粒数			
				1次	2次	1次	同左歩合	2次	同左歩合
				本	本	粒	%	粒	%
夢吟香	19.5	85.9	4.4	8.0	13.4	49.0	57.0	36.9	43.0
(対) 若水	19.2	80.8	4.2	7.8	12.0	49.1	60.8	31.7	39.2
(比) 山田錦	18.7	83.2	4.5	8.7	12.0	52.3	62.9	30.9	37.1

注、普通期栽培のサンプルで調査

表6 玄米の形状（2008年）

作期	品種系統名	長さ	幅	厚さ	長さ/幅	長さ×幅	長さ×幅× 厚さ
		mm	mm	mm			
早 植	夢吟香	5.23	3.18	2.10	1.64	16.63	34.93
	(対) 若水	5.27	3.23	2.12	1.63	17.02	36.09
	(比) 山田錦	5.37	3.08	2.04	1.74	16.54	33.74
普 通 期	夢吟香	5.44	3.24	2.10	1.68	17.63	37.01
	(対) 若水	5.27	3.20	2.08	1.65	16.86	35.08
	(比) 山田錦	5.63	3.15	2.08	1.79	17.73	36.89

表7 玄米の粒厚分布（2008、2009年）

作期	品種系統名	<1.8mm	1.8-1.9	1.9-2.0	2.0-2.1	2.1-2.2	2.2<
早 植	夢吟香	0.3	1.4	4.9	11.8	41.6	40.2
	(対) 若水	0.3	1.7	4.2	10.6	39.5	44.0
	(比) 山田錦	0.8	4.6	10.8	26.8	43.6	13.8
普 通 期	夢吟香	0.6	2.4	6.1	17.9	40.0	33.5
	(対) 若水	0.7	3.2	9.1	21.3	42.0	24.1
	(比) 山田錦	1.3	4.9	11.9	23.8	36.5	21.7

表8 心白発現率及び心白率（2008年）

品種系統名	心白発現率	心白率
	%	%
夢吟香	94.9	72.0
(対) 若水	97.1	83.3
(比) 山田錦	84.3	71.5

注、心白発現率=心白発現粒数/全粒数×100
 心白率=5大+4中+2小/5n×100
 大、中、小は、心白の大きさ
 調査方法の詳細はイネ育種マニュアル²⁾による

表9 心白型歩合（2008年）

品種系統名	心白型				
	無心白	点状	線状	眼状	腹白状
夢吟香	2.5	9.4	36.6	44.1	7.4
(対) 若水	1.4	3.8	30.5	58.1	6.2
(比) 山田錦	8.9	11.6	41.1	29.8	8.5

注、玄米横断面の心白の形により分類
 調査方法の詳細はイネ育種マニュアル²⁾による

表10 穂発芽検定

作期	品種系統名	供試年次			
		2007	2008	2009	平均
早植	夢吟香	△~△×	△	-	△
	(対) 若水	○~○△	○	-	○
	(比) 山田錦	△×	×	-	△×
普通期	夢吟香	△~△×	△	○△	△
	(対) 若水	○	○	○	○
	(比) 山田錦	×	×	×	×

注、判定基準◎：ごく難、○：難、○△：やや難
 △：中、△×：やや易、×：易

表11 いもち病真性抵抗性検定（2008、2009年）

品種系統名	Kyu89-246	新83-34	稲86-137	推定 遺伝子
	夢吟香	R	S	S
新2号	S	S	S	+
愛知旭	S	R	S	a
藤坂5号	R	S	S	i

注、R：抵抗性、S：罹病性
 新2号、愛知旭、藤坂5号：真性抵抗性検定の基準品種
 試験実施場所：山間農業研究所

表12 いもち病ほ場抵抗性検定（2008年）

品種系統名	葉いもち	
	発病度	判定
夢吟香	10.0	×
(対) 若水	10.0	×
日本晴	8.0	△×

注、発病度：0（無）～10（甚）の11段階評価
 判定基準 ◎ごく強、○：強、○△：やや強
 △：中、△×：やや弱、×：弱
 日本晴：基準品種
 試験実施場所：山間農業研究所

表13 縞葉枯病抵抗性検定（2008、2009年）

品種系統名	発病苗率		判定
	2008	2009	
	%	%	
夢吟香	17	0	抵抗性
コシヒカリ	100	70	罹病性
あさひの夢	27	0	抵抗性

注、2.8～3.0葉期の幼苗検定
 コシヒカリ、あさひの夢：基準品種

表14 白葉枯病抵抗性検定（2007、2008年）

品種系統名	2007			2008			平均		
	発病度		判定	発病度		判定	発病度		判定
	I	II		I	II		I	II	
夢吟香	6.0	5.0	△	4.0	2.5	△	5.0	3.8	△
(対) 若水	8.0	7.0	×	7.0	5.0	×	7.5	6.0	×

注、発病度：0（無）～10（甚）の11段階評価
 判定基準 ◎：ごく強、○：強、○△：やや強、△：中、△×：やや弱、×：弱

表15 原料米分析結果

調査項目	2008 (65%精米)		2009 (70%精米)		2010 (70%精米)		
	夢吟香	(対) 若水	夢吟香	(対) 若水	夢吟香	(対) 若水	
千粒重(g)	25.8	25.7	24.9	25.6	26.1	25.5	
碎米率(%)	1.6	3.8	1.6	4.5	1.1	4.9	
吸水性(%)	20分	28.6	26.5	26.1	26.4	27.8	28.0
	120分	29.4	27.9	26.6	26.9	28.3	33.9
消化性	B r i x (%)	10.6	10.7	10.7	10.7	11.2	10.9
	F - N (ml)	0.7	0.8	0.9	0.6	1.0	1.0
粗タンパク (%DRY)	玄米	7.7	8.4	8.1	7.5	8.0	7.9
	白米	4.6	5.0	5.8	4.8	5.3	5.3
カリウム (ppmDRY)	白米	292	356	348	388	261	455

注、試験実施場所：愛知県食品工業技術センター

表16 吟醸酒の官能評価

調査項目	新酒		熟成6か月(5℃)	
	夢吟香	(対) 若水	夢吟香	(対) 若水
香り	0.54	0.23	0.74	0.17
総合評価	0.31	0.08	0.78	0.35

注、パネラー：愛知県酒造技術者(23名)、香り・総合評価：-2(不良)~+2(良)
 2009年産米：現地試験(知多産)
 試験実施場所：愛知県食品工業技術センター

表17 現地試験の収量比率、品質及び評価

試験場所	調査年次	夢吟香			(対) 若水	
		収量比率	品質	評価	収量比率	品質
常滑①	2008-2010	97	5.2	○	100	5.0
常滑②	2010	85	6.0	△	100	6.0
半田	2010	—	5.5	○△	—	—
安城①	2010	106	6.0	○	100	6.5
安城②	2010	145	7.0	○	100	7.5
農大	2008 2010	103	4.9	◎○	100	5.3

注、品質：1(上の上)~9(下の下)の9段階評価
 5が1等、6が2等、7が3等相当(検査等級)
 評価 ◎：有望、○：やや有望、△：不明、×：見込みなし

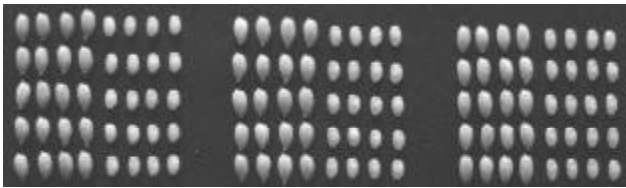
10 今後の展望

「夢吟香」は、「若水」と同様に、酒造好適米としてはややタンパク質含量が高く出る特性を持っている(表15)。タンパク質含量は、酒造特性に影響し、高含量になると製成酒のアミノ酸度が高まり、雑味のある酒となる。小出ら³⁾は「若水」において千粒重及びタンパク質含量は遅い穂肥で高まったとし、穂肥の施用時期は出穂前20日より遅くすることは避ける必要があるとしている。現在、「夢吟香」の収量構成要素及びタンパ

ク質含量について、目標値を策定し(表18)、粒大を維持しつつ、タンパク質含量を低く抑える肥培管理方法について、場内試験及び現地試験で検討中である。また、醸造方法の面からも、タンパク質含量が高くて、製成酒のアミノ酸度を抑える研究も始まっている。これらの研究成果を融合し、「夢吟香」に適した栽培方法、醸造方法を確立し、酒米としての評価を向上、確立する。これにより、本県酒米生産地が活性化し、生産農家の経営向上に結びつくことを期待したい。

表18 目標収量構成要素及びタンパク含量

精玄米重	:	450 kg/10 a
m ² 当たりもみ数	:	20,000粒
登熟歩合	:	85%
千粒重	:	26.5g
玄米タンパク含量 (乾物換算)	:	7.5%



若水 夢吟香 山田錦
図4 「夢吟香」と対照、比較品種の玄米ともみ



若水 夢吟香 山田錦
図5 「夢吟香」と対照、比較品種の草型

表19 育成者と従事年

氏名	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
工藤 悟							←→	←→	
加藤 満							←→	←→	
杉浦直樹	←→								
辻 孝子	←→								
中村 充				←→	←→	←→	←→	←→	←→
城田雅毅							←→	←→	
加藤恭宏	←→					←→			
船生岳人			←→	←→	←→	←→			
加藤博美									←→
澤田恭彦				←→	←→	←→			
鈴木敏夫			←→	←→					
釋 一郎			←→	←→					
井上正勝		←→							
山本晃司							←→	←→	←→
伊藤彰敏							←→	←→	←→
計									
育成経過	雑交配集団	雑種個体集団	選抜固定				生産力検定	特性検定	

注、部門別検討委員会による承認月（2010年3月）をもって育成完了年月とした

11 命名の由来

「夢吟香」で醸した吟醸酒は、香りが豊かで、飲めば夢心地になることにちなむ。

12 育成者と従事年

本品種の育成に関与した担当者とその従事年を表19に示した。

謝辞：本品種の育成に当たっては、県内各農林水産事務所農業改良普及課及び奨励品種決定現地調査の担当農家の方々には多大なご協力を頂いた。また、中埜酒造株式会社の方々には、いち早く実規模での試験醸造に取り組んで頂いた。ここに記して、関係者各位に深甚な謝意を表する。

引用文献

1. 香村敏郎, 高松美智則, 釋一郎, 朱宮昭男, 芳賀光司, 谷口学, 工藤悟, 伊藤和久, 田辺潔, 中嶋泰則, 杓名吉弘. 水稻酒米の新品種「若水」の育成. 愛知農総試研報. 15, 24-34(1983)
2. イネ育種マニュアル. 農業研究センター研究資料. 30, 66-67(1995)
3. 小出俊則, 伊藤和久, 高松美智則. 酒造米「若水」の品質安定に関する研究. 愛知農総試研報. 27, 41-48(1995)